

人体の構造 追試験 09M

○発生 ○位置関係 ○管系に注目して覚える

・第4 頰弓動脈は、左は 1.(大動脈弓)の一部、右は 2.(右鎖骨下動脈)の近位部になる。

※ 頰弓動脈

1~6 までであるが、3,4,6 のみが残し、重要な血管になる。

第3 頰弓動脈→内頰動脈の起始部

第6 頰弓動脈→肺動脈（左側では動脈管）

・骨盤下口は 3. (肛門挙筋（骨盤隔膜））と 4. (内閉鎖筋) によって閉鎖される。

※ 肛門挙筋は、恥骨直腸筋（排便のコントロール）、腸骨尾骨筋、恥骨尾骨筋

・馬蹄鉄腎は 5. (下腸間膜) 動脈の部位までしか上行できない。

・臍臓の頭（部）の背側には 8. (下大静脈)、頰の背側には 7. (門脈／上腸間膜静脈)、体の背側には 8.(上腸間膜動脈)があり、尾の背側には 9. (脾臓) がある。

※ 脾静脈が出る位置で上腸間膜静脈と門脈の名称が変化

・総胆管は 10. (胆嚢管) と 11. (肝管) が合流して形成される。＜ネ 280＞

・肝臓は前腸（将来十二指腸になる部位）の 12. (腹側) から形成され、13. (横中隔) の中で増殖し完成する。

※ 横中隔は横隔膜の腱中心になる

・食道への逆流を防ぐのは 14. (噴門切痕) である。

・短胃動脈が分布するのは 15. (底部) である。

※ 短胃動脈は脾動脈から分岐して上行する

・輪走筋が最も発達しているのは 16. (幽門) である。

・区域に分けられる主な臓器は 17. (肺) と 18. (肝臓)

・第12 肋骨と腸骨稜の間に張る筋は 19. () で、その腹側に 20.(腎臓)がある。

・→が示すのは 21. (胸腺) であり、これは 22. (上／前) 縦隔に位置する臓器である。

※ それぞれの縦隔の関係とそれぞれに存在する臓器について暗記する

※ →が見づらいため、正解かどうかについてはあやしいです

・肋間筋は 23. (外肋間筋)、内肋間筋、24. (最内肋間筋) の三枚よりなり、血管は内肋間筋と 24.の間を走る。

- ・ 右冠状動脈は主に 25. (右心房) と 26. (右心室) の境を走行する。
- ・ 刺激伝導系の右脚は 27. (心室中隔膜性部? / 中隔円柱) の表層を走り、右室内壁で枝分かれし、28. (プルキンエ) 繊維になる。＜ネ 2 1 9＞
- ・ 食道に関わる静脈で上部の枝は主に 29. (奇静脈) を経て上大静脈に、下部の枝は主に胃冠状静脈を経て 30. (門脈) に注ぐ。
- ・ 胚盤胞の→が示すのは 31. (内部細胞塊) である。
- ・ 胸骨柄の下半分の背側に存在する血管は、32. (大動脈弓)、32. (上大静脈) である。＜ネ 2 0 6＞
- ・ 体節に shh (ソニック・ヘッジホッグ) の発現を介して椎板を誘導するのは神経管底部 (腹側部) および 33. (脊索) であり、33. は椎間円板の中央に存在する 34. (髄核) として成人の身体に残る。
- ・ 気胸が存在する空間は 35. (?) である。
- ・ 大胸筋の起始は、36. (鎖骨)、37. (胸骨)、肋骨、腹直筋鞘で、停止は 38. (上腕骨) の大結節稜である。
- ・ 脳の拡大している部分は 39. (?) である。
- ・ 心奇形の 4 つは、40. (心室中隔欠損)、41. (右心室肥大)、42. (大動脈騎乗)、43. (肺動脈狭窄) である。
- ・ 胸膜は胸郭を裏打ちする 44. (壁側胸膜) と、肺を包む 45. (肺胸膜) からなり、その間の空間を 46. (肺膜腔) という。

※肺膜腔のうち、特に下の尖った部分を肋骨横隔洞という。

- ・ 左主気管支を乗り越えて背側へ向かうのは 47. (大動脈弓) と 48. (肺動脈) である。
- ・ 左腎臓の腹側 (下部) に癒合筋膜を介して接するのが 49. (脾臓 / 結腸) である。

※上部では腹膜を介して脾臓が接する。

- ・ 胃の背側の空間を 50. (網嚢) と呼び、後壁の一部を構成するのは脾臓である。

※ 網嚢の周囲の壁を構成する臓器、器官を確認しておく。